

---

# ほしのした

桜華蒼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ほしのした

### 【Nコード】

N4913C

### 【作者名】

桜華蒼

### 【あらすじ】

声がでなくなった哀ちゃん、一ヶ月後。『その時まで』とはリンクしてますが、話自体は独立していますので、これだけでも読めます。昨日哀ちゃん出てた記念。病院にて、哀ちゃん&工藤くん。何気にLoveLoveしとります。

見舞い客のいなくなった夜の病室に、保護者代理として許可をもらい居座る俺。灰原は、何も言わない。というか、言えない。

1ヶ月前に未完成の解毒剤を飲んで、声を無くしたから。

ふと何かを思い立ったようにテレビを消した彼女を見れば、くつと、袖を引っ張られる。

天井を見上げ、指で、天井を指す。

「屋上？ 今日開いてるのか？」

こくん、と頷くその仕種。

コミュニケーションは前より良好だ。

伝えなきゃ、伝わらなきゃということがあるからか、灰原は感情を素直に表情で表す。元々、お互い考えることはわかるような間柄だったから尚更わかりやすい。

キヤラクターものの、パジャマにピンクのスリッパを履いて先に部屋を出る彼女。

パタパタ、スリッパの音が反響する廊下。

10時をまわった時刻なので、俺は黙ったまま歩く。階段近くのエレベーターに乗って屋上まで上がる。いつもは鍵の掛かった屋上への扉を、灰原はポケットから出した鍵で開ける。ざっと風が、灰原の髪を揺らした。

金網を張り巡らせた奥の方までずたずた行く彼女に声をかける。

「よく鍵貸してもらえたな」

振り返って、にんまり笑う。

『黒羽さん仕込み』

ぱぱっと手話をした。

「ええ！」

思わず、声を上げニヤニヤ笑いの怪盗を思い出した。

『冗談よ。ちゃんと許可ももらったわ。今日は流星群が見れるの。』 8

時にね、みんなとも見たのよ』

「へー、いやてつきり、な」

『あなたこの頃忙しいみたいだから』

なんか、普通に俺のことを考えてくれてるらしい。そーいうのは、素直に嬉しい、かなり。

俺は灰原が見ている方角に目をやった。

群青色の空の、雲の間から光が一筋流れた。

と、二つ、三つと次々に星が流れ出す。

しばらく、流れを目で追いかける。

「あ！」

『なに？』

物思いに耽っていた彼女の抗議の目。

「やべつ。願い事すんの忘れてた！ こんだけ星が降ってりや叶えてくれるよな」

パンッと手を叩いて、俺は真剣にぶつぶつ呟く。

呆れるような視線がびびし伝わってくる。

「なに傍観してんだよ、オメーはしねーの？」

『歳いくつ？』

俺は灰原を後ろから抱きしめるような格好で、彼女の手を自分の手で包む。

「なんかあるだろ？」

顔を覗きこむと、目一杯逸らされた。

凹む。苦笑して、空を見上げた。

それから、15分後、『いつまで引っ付いてるつもり？ いい加減暑いんだけど』のジト目と空がいつもの色を取り戻したのを見てから、病室に戻る。

時計は10:40。流星にお暇しなくては、と身仕度を始める。ベットに潜った灰原の頭をポンポン叩く。

「またくるな」

『願い事、なに？』

少し曇るような瞳。

「灰原がこれからも幸せなように」

最初は、早く声が聞きたいと思っていた。欠けたものがあることは不幸なのだと。

でも、灰原は笑っている。だから、この状況は幸せなんだと。

声がなくても、いとも簡単に俺の心を救い上げる彼女がいるだけで、俺は幸せだから。

『今日は夢できつとあなたに会っわ』

そう笑った。

こんなこと、言っではくれないから。

「じゃあ、また夢で」

やっぱり幸せだ。

END  
ミ

（後書き）

アニメラストの台詞は、コナンってば、実は哀ちゃんの気持ちに氣付いてるような予感。素敵だ！ 次回予告も哀ちゃんを自分の陰に隠す過保護っぷり。バンザイ！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4913c/>

---

ほしのした

2010年10月23日13時34分発行